



SCANDAL/Image

～楽曲の魅力を引き立てるツインギター～

「Image」は、大阪のボーカル&ダンス教室出身のメンバーで構成され、平成のガールズバンド人気を支えた

SCANDALの2014年にリリースされた20thシングルだ。テレビ番組「国際女子クラブサッカー選手権2014」の公式応援ソングとしても使用された。

軽快な疾走感の中にも重厚なサウンドが感じられるところが魅力的な楽曲だが、そのサウンドの要となっているのは、計算された2本のギタープレイにある。

役割分担が明確なバックアッププレイ・・・

この楽曲は、セクションごとに2本のギターの役割分担がはっきりしている。1コーラス目だけをみても、2回繰り返されるAメロはギターアプローチを変化させることでサウンドを徐々に盛り上げるアレンジになっている。1回目は2本のギターが音域を変えたタイトな8分音符のミュート奏法で弾いているが、2回目は全音符と8分音符のカットインに…といった感じだ。

Bメロは、片方のギターがハードな歪みで2拍4拍でのリズムを前面に出したドライブ感溢れるコードバックアップをしているのだが、これだけだとメロディに対して少しリズムが立ちすぎるため、もう1本のギターが透明感のあるアルペジオ主体のゆったりとしたフレーズを弾いて、ドライブしたサウンドの中にしなやかさを感じさせている。これが2コーラス目ではコード進行や構成を若干変えながら、また違うアプローチが行われている。

サビは2本とも8分音符中心のバックアップだが、ルートを強調するパワーコードがメインのバックアップと、和音感を出すために1弦から4弦あたりを

意識したバックアップに振り分けることで、トータルなサウンドに広がりを出している。

ギターソロ前のインターロードセクションでは、途中から入ってくるリズムパターンが異なる2本目のギターが効果的だ(譜面)。一定のパターンでカットインしているギターの休符部分に、もう1本が別パターンのカットインで絡んでくるポリリズム的なアプローチは、ツインギターの際によく用いられる手法だが、2本ともシンプルなフレーズでその効果を十分に出している。お互いのフレーズの休符を意識してカットインすることで、リズムの絡みが複雑になり、グルーブ感が増している。



譜例 テンポ♩=110ぐらいで友達と2人で実際に弾いてみよう

2本のギターの音色に違いを出す・・・

2本のギターでこの楽曲のようなアプローチをする場合は、弾くフレーズに適した音色をチョイスすることが重要だ。

バンドで演奏する時は、パワーコード系のベーシックなバックアップをする方は「ディストーション」系のエフェクターを使用してハードに歪ませ、1弦から4弦あたりをメインにアルペジオやカットインをする方は音の分離を考慮して「オーバードライブ」系のエフェクターで歪ませると良いだろう。

参考にするなら、この曲もオススメ!



KEYTALK スターリングスター

ノリの良い楽曲スタイルが持ち味のバンド、KEYTALKの6thシングル。アニメ「ドラゴンボール超」のエンディングテーマ。コードバックアップ主体のパートとメロディに絡むフレーズのパートのツインギターが印象的。2015年リリース。



KANA-BOON なんでもねだり

ポップでキャッチーなメロディが魅力的なKANA-BOONの2015年にリリースされたメジャー6枚目のシングル。1stアルバム収録の「ないものねだり」をもじっている。派手さはないが堅実なツインギターのプレイが好感。